α.STATION
FM KYOTO 89.4

SPECIAL INTERVIEW

互いに合点のいく情報で共感できる番組づくりを

きっかけはラインキャスター

ケニア大使館に勤めていたころ、国や地域が荒れ、そこに暮らす人々の心が刺々しいのは、貧困からではなく教育に問題があるのではないか――。そう感じることが多々あり、帰国後は英語教師として教壇に立つ身となりました。その後、α-STATIONでイングリッシュラインキャスターのオーディションに受かり、週1回ニュースを読むことに。しばらくして「DJをやってみないか?」と声をかけていただいたのをきっかけに、この世界に入りました。専門的にどこかで習ったわけではなく技術面に関してはすべて現場で学んできましたが、DJとしての核たる部分は誰かに教えられるものではなく、やはり自分で見つけるものだと思っています。だからDJになりたいという人には「DJになって何をしゃべりたいの?」と訊きますね。私自身でいえば、音楽の魅力というか魔力のようなものでした。いまはそれに加えて、ニュースを伝えたい。自分の目線で捉えた言葉が、聞く人の胸にすとんと落ちるような…合点のいく情報を。その想いがあるからこそ、同じことを繰り返しているように見える毎日に飽きることなく、ルーティンになることなく、ここまで長く続けていられるのだと思います。

DJと教師に通ずる魅力とは

現在、京都外国語大学と京都造形芸術大学で英語を教えているのですが、DJと教師という仕事には意外にも共通点が多い気がします。最大の共通点は、嘘がつけないこと。一度でも当てずっぽうでものを言ってしまったら、後でどんなにフォローしても取り繕っても、失った信頼は取り戻せないという点では、とてもよく似ています。放送と教育は繋がっていると感じるようになってからは、両者を区分しないようになりました。また、難しいニュースばかりでは楽しくないラジオと同じで、授業も適度な遊びの部分が必要です。つまりは、バランスが大切だということ。また、リスナーの方々も生徒も建て前ではなく本音を知りたいと思っています。だからこそ、ちゃんと考えて話さないと言葉は相手に伝わらない。末端まで神経を行き届かせて、相手の心に響く言葉を選びたいですね。

価値観の共有こそがラジオの醍醐味

言葉の重要性について思い知らされたのは、阪神淡路大震災のとき。10時間ぶっ続けで放送をして、TVと違いラジオはいざというときのための情報提供の媒体なんだということを実感させられました。当時、α-STATIONではDJのことを「エアパートナー」と称していたのですが、まさにこの言葉通り。電波を使って伝えられる情報はもちろん、そこに存在する目には見えない価値観をリスナーの方々と共有・共感する。それこそ、ラジオの醍醐味なのですから。確かに、最近は気が滅入るような腹立たしいニュースも多いですが、これはいままで蓋をされてきたパンドラの箱が開き、知り得なかったことが表に出てきた証拠でもあります。問題が明らかになれば、それを改善していけばいい。そうできる状況にあると考えれば、暗いニュースが多いのもあながち悪いことではないのかもしれません。

ラジオは、リスナーの方々の「想像力」をかなりアテにしているんです。全部を説明するのではなく、「このインフォメーションを組み立ててくださいね」と聴覚に訴えかける情報だけで、あとは聴き手に任せる。だからこそ、そこに「価値観の共有」が欠かせないのです。14年やっても早起きには慣れませんが(笑)。また、想像力を刺激するという意味では、今後、朗読や落語にも挑戦してみたいですね。自分の力量が試される最たるものでしょうから。

Sato Hiroki

札幌生まれ。ケニア大使館での勤務、英語教師を経てイングリッシュラインキャスターをきっかけとしてDJに。得意の英語を武器にした、'93年から続く「α-MORNING KYOTO」は、看板番組としても多くのファンを持つ。趣味はパイプとシングルモルト。

DJ's Favorite Item

所有している5本のパイプの中から、No.1とNo.2をお披露目。デビューは28歳のころ、様になっている愛煙家の姿を見て憧れから。家で仕事をするときはいつもパイプを燻らせており、月に1、2度は祇園にあるパイプバーにも出没するそう。「趣味としてオープンにしたら、仲間が増えましたね」とにんまり。現在6本目を物色中だとか。

α-MORNING KYOTO
毎週月～金 7:00～10:00
DJ:佐藤弘樹

アダルト・コンテンポラリーなサウンドとともに、最新ニュース、ワールドワイドな話題をわかりやすく伝えてくれる。あわただしい出勤時、朝刊がわりにどうぞ。番組名物コーナーの「One Point English」が本になった「α-ラジオブック英語+α(光村推古書院)」も要チェックです。